

令和三年度

青少年の健全育成に関する

作文コンクール作品集

川口市青少年保護育成本部

川口市教育委員会



目次

へ最優秀賞へ

ぼくが大切にしたいこと

飯塚小学校

六年

大野 和登

2

今日より明日へ、一歩ずつ進む

南中学校

三年

神戸 菜花

4

へ優秀賞へ

「思いやりの気持ち」

新郷小学校

五年

武田 結真

8

素敵な言葉のプレゼント

差間小学校

六年

大野 美空

10

楽しかった出来事

差間小学校

六年

福島 奈々

12

教師になるために

元郷中学校

一年

佐藤 心美

14

理想像を叶えるために

幸並中学校

一年

齋藤 美結

16

挨拶から始まる日常

川口市立高等学校
附属中学校

一年

下畠 碧莉

18

へ入選

言葉の重み

原町小学校

五年

川島 理央

22

私の大きな目標

差間小学校

六年

百武 美乃花

23

「大切なのは、一回の挑戦」

差間小学校

六年

藤原 実柚

25

大切な自然

里小学校

五年

生田 実央

27

最高の思い出

里小学校

六年

小宮山 庵

29

感情

里小学校

六年

金野 莉愛

31

「思いやりを持つて」

南鳩ヶ谷小学校

五年

谷口 香穂

33

将来の夢を叶えるためにすべきこと

東中学校

三年

本田 蒼依

35

将来に向けての道

南中学校

二年

大澤 杜和

37

自信をもって

安行中学校

三年

角海 風沙

39

へ佳作へ

「ありがとう」の気持ちを	差間小学校	六年	東 凜花	42
「創作は常に冒険である」	差間小学校	六年	大森 菜々美	44
とても大切な本	里小学校	四年	鈴木 結愛	46
大切な食べ物	里小学校	五年	桐村 莉央	48
二つの言葉の感謝	里小学校	六年	宮内 志帆	50
大切なこと	里小学校	六年	稲留 双葉	52
大切にしたいこと	南鳩ヶ谷小学校	四年	河野 ひかり	54
「日々の努力は実を結ぶ」	南鳩ヶ谷小学校	六年	安達 駿太	55
「私のヒーロー」	南鳩ヶ谷小学校	六年	横山 心音	56
私に希望を与えた彼の言葉	榛松中学校	三年	熊谷 海	57

令和三年度 作文コンクールテーマ

小学生の部

- ・自分が大切にしたいこと
- ・学校って楽しいな

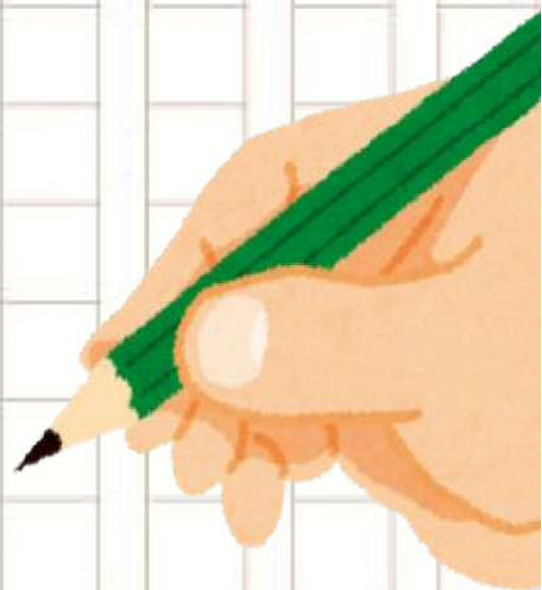
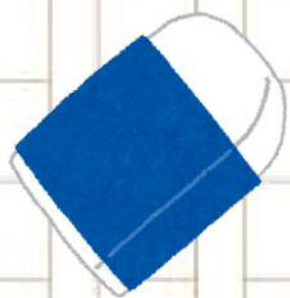
中学生の部

- ・将来の夢を叶えるためにすべきこと
- ・日常生活すること、日常であること

応募総数 1, 253作品

たくさんのご応募ありがとうございました。

最優秀賞



ぼくが大切にしたいこと

飯塚小学校 六年 大野 和登

「だめ、だめ、いい、いい。」

ぼくがひくピアノの演奏に合わせて、弟が声を出して笑っています。体をくるくる回らせたり、不思議なリズムを取りながら、ぼくからはなれようとしません。ぼくも何だかうれしくなって、いつもより早くひいてみたり、一オクターブ上でひいてみたり、つい調子に乗ってしまいます。弟はぼくの演奏の一番のファンなのです。

ぼくには二才の弟がいます。弟は言葉がまだ話せません。言葉の意味も理解出来ず、一人でご飯を食べたり、一人でトイレに行くことも出来ません。いつも家中を走り回って、色々な物を投げたり、落したりします。ぼくはそんな弟が少し苦手でした。

弟が生まれると分かった時は本当にうれしくて、早く一緒に遊びたい！ぼくのこと何て呼んでくれるんだろう！とわくわくしていました。けれど、

実際はぼくが思っている弟とはちがいました。弟はぼくには全く興味がなくて、名前を呼んでもふり向いてもくれません。何かしてあげようと思っても、すぐに泣くか怒ってしまいます。そんなぼくを見てお母さんが、弟はみんなよりも発達がゆっくりなんだと教えてくれました。ショックでした。一緒に遊ぼうと思っていたのに。お兄ちゃんって呼んでもらいたかったのに。

ぼくはそれから逃げるように、毎日ピアノをひくようになりました。ピアノをひいている時間が、ぼくだけの時間に思えたからです。

そんなある日、弟がぼくのピアノの側にやってきました。いつもは電車以外には何も興味を持たない弟が、ピアノをさわりたいがったのです。ぼくは弟を自分の上に座らせて、けんぼんをおして見せました。すると弟が声を出して笑い始めました。ぼくはびっくりして、次はドレミファソラシドと連続でひいてみると、弟はケタケタ楽しそうに笑います。まるで弟には、音以外の何かが見えているかのように。

ぼくは弟と、言葉でコミュニケーションを取ることは出来ません。けれど、ぼくはピアノをひい

たり歌をうたうと、弟の気持ちがぼくに伝わってくる気がします。ぼくはピアノがすごく上手というわけではないですし、たくさんの曲をひくことは出来ません。それでも弟は、いつも楽しそうにぼくの演奏を聞いてくれます。そんなぼく達を見て、家族みんなが笑顔になります。それが、ぼくは本当にうれしくて仕方ありません。

ぼくの夢は音楽家になることです。ぼくの奏でるピアノや歌で世界中の人を笑顔にしたいからです。ぼくがこの気持ちになったのは、弟がいてくれたからだと思います。今では弟が、ぼくの演奏の一番のファンで、一番の理解者です。弟が笑顔になれば、ぼくも家族も心から幸せを感じ、笑うことが出来ます。そんな弟の笑顔をぼくはずっと大切にしたいと思います。

今日より明日へ、一歩ずつ進む

南中学校 三年 神戸 菜花

今、私には二つ叶えたい夢がある。

一つは、デザイン関係の仕事に就くことだ。小さい頃から絵を描くことが好きだった。自分の描いた絵を見て、笑顔になる家族の顔を見るとすごく嬉しくなった。それから、いつしかそれを仕事に活かせたら楽しいだろうなと思い始め、絵に関する仕事に興味をもつようになった。

もう一つは、自分のブレない芯を持った、強く優しい大人になることだ。私には、憧れの人がいる。それは、小学校の時三年間も担任だった先生である。その先生は、とにかく子供思いで、いつも生徒と一緒に泣いたり笑ったりしていた。私達の命に関わることには本気で、真剣に教えたり、怒ったりしてくれた。大縄で、クラスの最高記録が出れば生徒よりも嬉しそうに両手を上げて喜んでいた。そんな先生と三年間一緒に過ごしていくうちに、先生の人格の良さ、いい意味で大人らし

くない部分があることに気づいた。例えば先生が、いつもなら怒らないような小さなことでつい思い切り生徒を怒鳴ってしまった時。先生はすぐに子供達に頭を下げて謝った。いつも先生は、自分が悪いと思った時、相手が子供だろうと大人だろうと律義に謝っていた。六年生になった時、先生のそのいつでもどこでもブレないかっこいい姿に憧れを抱いた。

この二つの夢を叶えるために私がこれからすべきことは、まず自分の良さ、自分にしかないものを見つけることだと思う。美術館や学校に展示されている絵画の作品を見ると、思うことがある。それは、その絵を人が楽しんで見てくれるかどうかは、絵を描く「うまさ」ではなく、その人の「個性」「自分らしさ」をどう表しているかで変わってくる、ということだ。つまり、まずは自分だけの自分にしかないものを見つけ、それをどう絵・デザインにもち込むかを考えることが大切だと思う。そしてその考えたものを、今度はどうしたら多くの人に注目してもらえるか、楽しんでもらえるかを考えていきたい。そのものがどういう形かはまだ分からないけれど、最終的にはそれを見て多く

の人が笑顔になって、その人達の楽しみやちょっとした休憩になるようなものをつくりたい。

また、その個性も大事にしつつ、他人の良いところを盗み取り入れていくことも大切だと思う。全てを取り入れるのではなく、いいなと思った工夫の仕方や考え方を、自分のもっているものに少しずつプラスしていくことで、より深くて、人を引きつけるものが出来上がると思う。

そして、次の言葉は私が先生からもらった手紙に書かれていた言葉である。

「限りある命。昨日の自分より今日の自分。今日の自分より明日の自分。一歩ずつ、全力で前進していきましょうね。お互いに。」

二度とやり直せない、限りある命。だからこそ、自分の意思をしっかりもってブレずに突き進めるかっこいい大人になりたい。そのために今は、例えば授業で迷わず挙手して発言するようにしたり、友達の間違ったことをしていたら、友達として正したり、身近なところから挑戦しようとする姿勢を見せる。これを今の目標として、将来につなげたい。

私は、デザイン関係の仕事に就くこと、強くて

優しい、ブレない大人になること、この二つの夢を叶えるためにここで書いたことを言葉だけにせず行動で示したい。そして、いつか今度は自分が誰かの憧れの人になるような、素敵で大人になりたい。

優秀賞



「思いやりの気持ち」

新郷小学校 五年 武田 結真

わたしのお母さんはしょうがい者しせつで働いています。自閉症の人やのうせいまひの人たちが利用するしせつです。わたしははじめてお母さんが働くとき、

「しょうがい者ってどうなんだろう、こわいのかな。」

と心配でした。ですがお母さんは毎日とても楽しそうにしていました。ある日しせつに用事があつたため、わたしもついて行きました。すると、利用者さんたちはここに手で手をふってくれました。そのときからわたしはしょうがいのことに興味をもつようになりました。

お母さんの仕事では利用者さんたちとお買い物に行ったり、さんぽに行くそうです。そのときに、「気持ちわるい、近づけるな。」

と言ってくる人がいると聞きました。それを聞いたわたしはなんでもっとやさしく対応できないの

だろうと思いました。すぐに見た目ではんだんするのとはよくないと思います。自分になりたくてしょうがい者になったわけではないのに相手のかっけな気持ちをぶつけられてかわいそうだと思いました。だからわたしは差別をしないでどんな人でも共に生きる気持ちを大切にしたいと思います。がんばって言葉を返そうとしているのにばかにされたりむしされるのはかわいそうだと思います。「にがてなことはみんなで協力して乗り越える」という気持ちから分かりやすいかんたんなルールをつくるだけでしょうがい者の人も気持ちよくすごせると思います。

来年、新郷小でも特別支えん学級が作られます。こまってる人がいたらすぐに助けてあげたいです。初めての場所できつと不安でいっぱいだと思います。わたしも一年生の時、友だちに助けてもらったことがあります。だからこそ助けてあげたいという気持ちになりました。

わたしは仕事の話を聞くのがとても楽しみです。お母さんはよく利用者さんから手紙をもらってきます。お母さんはとてもうれしそうです。その手紙には、

「今日はありがとう。とても楽しかったです。よい休日を。」

と書いてありました。すごくやさしい人だと思いました。わたしもそんな人を思いやれる気持ちを持った人になりたいです。

わたしは大きくなったらお母さんみたいな仕事をやってみたいです。そしてしょうがい者の人に対する思いやりの気持ちを大切にしたいです。

素敵な言葉のプレゼント

差間小学校 六年 大野 美空

私が大切にしたい事は、
「最後まであきらめなければ夢はかなう」という言葉だ。これは、二〇二一年の東京オリンピックでソフトボール選手の上野由岐子さんが言っていた言葉である。私はこの言葉をテレビニュースで知った。

なぜこの言葉を選んだのかというと、オリンピックの結果や上野由岐子さん達、ソフトボール選手への努力を知りとても感動したからである。また、自分のあきらめやすいという短所を直したいと思ったからだ。

私は、二年生から五年生までそろばんを習っていた。最初は、暗算でもできるような簡単な問題ばかりだったがどんどん級が上がるごとに自分の思う通りに進まなくなっていた。私が順調に進んでいない間に、周りの友達が私を追い抜いていくことに對してとてもあせりを感じていた。そのあ

せりのせいか、さらにミスが多くなり、教室へ通うことも少しずついやになっていく自分腹が立っていた。

結局、そろばんはやめてしまった。今思えば、あの時の私は自分に甘かったのかもしれない。一回心が折れるとなかなか立ち直ることができないということが分かった良い経験になった気がする。その後、上野選手の素敵な言葉に出会った。金メダルをかくとくした北京オリンピックから十三年。当時二十六才の上野選手は、四百十三球を投げ抜き日本に金メダルをもたらした。北京大会のあと、ソフトボールがオリンピックの種目からなくなることは決まっていた。しかし、それでも上野選手はあきらめず、他の選手たちと競技の復活を呼びかけ続けた。八年後、ソフトボールの競技が東京大会で復活することが決まった。二〇二一年七月二十一日、上野選手が十三年ぶりにオリンピックの舞台に戻ってきた。投げられなくなるまで投げてやるという強い意思。大たんに攻めるピッチング。そして、チームを勝利に導いた。その後インタビューでこう語っていた。

「十三年という年月を経て、最後まであきらめ

なければ夢はかなうということをとくさんの方に
伝えられたと思う。」

私だったら、ソフトボールがオリンピックの種目
からなくなってしまうことを知った時点であきら
めてしまうと思う。上野選手が十三年間ずっとあ
きらめなかったかっこいい姿にとってもあこがれた。

私も、上野選手のようなかなえたい夢があれば、
どんなことがあってもあきらめない強い心を持っ
ている人になりたいと思う。どんなことでも努力
をしなければ達成できないことや、と中でくじけ
ても立ち直れるような、そのことに対する強い思
いを大切にこれから生きていきたい。このことは、
これから辛いことがあったときに生かしていきた
い。

「最後まであきらめなければ夢はかなう」
この言葉をこれからも大切にしていきたい。

楽しかった出来事

差間小学校 六年 福島 奈々

私は今の小学校が大好きです。そんな大好きな小学校で起きた、「楽しかった出来事」を紹介します。

一つ目は、私が二年生のころの出来事です。私はそのころ、仲の良い友達がクラスにいませんでした。なので休み時間は一人で絵を描いていました。「ちがうクラスがよかった。」と時々思っていました。でもそんなある日、私の前の席の子が後ろを向いて、「友達になろう。」と言ってきました。私はおどろいて、固まってしまいました。その後、「うん」と一言返しました。するとその子はまた前を向いてしまいました。私は「友達になろう。」なんて言われたことがなかったので、すぐうれしかったです。しかもその子はいつも遊びにさそってくれるし、いっしょに絵を描いてくれる、すごく優しい子でした。そんな子と友達になれてうれしかったし、何より学校に来るのがすごく楽し

みになりました。私はその子のおかげで、このクラスでよかったと思えるようになったし、学校って楽しいと思えるようになりました。その年はすごく最高な年でした。これが一つ目の「楽しかった出来事」です。

二つ目は、この前にやった六年生だけの音楽会のことです。私は、今年も音楽会でできないのかなと、少し不安でした。でも音楽の先生から、六年生だけの音楽会の話を聞いて、心がパーと明るくなりました。すごくうれしかったです。

私達が演奏したのは、「カイト」という曲と「ドラゴンクエスト」の曲でした。最初はあまりイメージがつかなかったけど、楽譜を読んで弾いていくうちに、だんだんイメージがついてきて、本番が楽しみでした。ですが、学年で合わせて練習できるのが、たったの二回でした。私は、「本番までに完ぺきにできるかな。」と不安でした。でも何回か練習していくと、合うようになりました。みんなで協力して演奏するとこんなはく力なんだとおどろきました。「これなら本番も大丈夫。」と自信ができました。

本番当日。私達は三回演奏することができまし

た。三回目が終わった時に私は泣きそうになりました。「がんばってよかった。」と心から思いました。練習している時も演奏している時も、すぐくすぐく楽しかったです。これが二つ目の「楽しかった出来事です」です。

私は今の小学校に入学できて、本当によかったです。この小学校だったから経験できたことなんて山ほどあります。本当に大好きな小学校です。でも来年にはもう卒業です。この小学校ともお別れです。悲しいけど今まで学んできたことは無駄じゃないと思っています。楽しかったこと、うれしかったことをこれからも忘れないでいたいのです。そして、卒業までの期間を「楽しかった」と思えるように、これからがんばっていききたいです。

教師になるために

元郷中学校 一年 佐藤 心美

私の将来に夢は、小学教師になることです。理由は、たくさんの子供と関わり、勉強を教えたいからです。

私が小学生の頃は保育士になることが夢でした。しかし高学年、中学校へと上がって勉強することに楽しさが出てきて、将来は子供たちに勉強を教える側に立ちたいと思うようになりました。

私が小学教師を目指したいと思うようになったきっかけは二つあります。

一つ目は、小学校の時お世話になった先生の存在です。その先生はとても分かりやすく授業をして下さった、とても優しい方でした。そんな先生を私は尊敬していて、あこがれの存在です。

二つ目は、勉強に対する思いの変化です。小学五年生位までは私は正直勉強があまり好きではありませんでした。単純に得意ではなかったからだと思います。しかし五年生の終わり頃からコロナ

ウィルスの影響で休校となり、毎日学校で勉強ができることは感謝するべきことだと気づくことができました。それから勉強に対しての姿勢を改めて真剣に取り組むようになり、勉強って楽しいんだと思えるようになりました。

中学生になって、自分が興味のある職業を調べて発表する時間がありました。私は保育士を調べようか、それとも教師にしようか、とても迷いました。この授業がきっかけとなって、この先の目標が明確になると思っていたからです。

今まではずっと将来は保育士になる人だと思ってきたけれど、今回の授業で改めて考える機会を与えられ、詳しく仕事について知っていきこうと思いい、教師を調べることに決めました。調べていくと、魅力ややりがいと共に時間外業務が多いこと、教育以外の指導の難しさ、保護者対応等が大変だということが分かりました。また、コミュニケーション力や観察力なども求められることを知りました。

私がこれから教師を目指すにあたってやるべきことは三つあります。

一つ目は、勉強を完璧にすることです。これは

教師として絶対にできていなければいけないと思います。私は小学四年生の弟に算数を教えた時、解説がうまくできませんでした。頭の中では理解していても、それを説明し理解してもらえないと本当に理解しているとは言えないと思うので、今から訓練していききたいです。

二つ目は、得意分野を増やすことです。他者に誇れるものがあるとしてもかっこいいと思います。正直、今は自信をもって得意だと言えることがあまり分かりません。だから色々なことに挑戦して新しい発見に出会いたいです。

三つめは、皆をまとめる力をつけることです。それはとても重要なことだと思います。私はクラスで班長をやっていて、班活動やまとめる時、大変さを感じました。一人一人考え方が違う人達をまとめる役はとても大変だから今から練習していきたいです。

これから教師になるためにたくさん勉強し、努力して、あこがれの先生のような立派な教師になれるように頑張りたいです。

理想像を叶えるために

幸並中学校 一年 齋藤 美結

私は、教えることや子供と接することが好きなので、将来の夢は小学校の先生になること。教える方が上手で、明るく個性が強い昔の担任の先生をお手本としている。そんな先生になるために、すべきことが三つある。

一つ目は、日々の勉強を十分理解すること。教えることが上手な先生の授業は、楽しいのでやる気が出る。挙手が多くクラスが活発になる。分かりやすい言葉で説明したり解き方を教えるには、暗記だけでなく、なぜそうなるかまで頭に入っている必要がある。新しい単元は、持っている知識を利用することで理解しやすくなる。そう教えてあげるには、先生の頭の中が整理されている必要がある。そのために、分かるうとする意欲を持つて、もっとどん欲に勉強したい。自主的に学習した内容は時間が経っても忘れにくいので、どの教科もその気持ちでとり組みたい。また、人に説明

できるだけの国語力を身に付けるために読書やニュースを見ること、日記を書くことを習慣にし、語い力を高めたい。

二つ目は、自分の特技をのぼすこと。私は六年間書道教室に通っていて、硬筆展、書初め展の県展審査に通るよう毎年努力してきた。先生になった時、ためになるアドバイスをしてあげられるように正しい練習を続けていきたい。私は運動も大好きだ。好きを得意にするために、陸上や水泳のフォームを変え、タイムをぐんと縮めることができた。字が上手だったり、運動神経の良い先生は、子供から見てもこれが対象で距離が近くなれると思う。決して始めから運動が得意だったわけではないので、運動ができるようになりたい子供の目線に立って、自分の経験からアドバイスができると思う。陸上部で効果のある練習を重ね、成果を出したい。結果の善し悪しに左右されず、辞めない、きれない、諦めない気持ちでコツコツと努力したい。

三つめは、良い人間関係を築くこと。良い先生になるには、これも欠かせないことだと思う。一人一人の生徒に寄り添ってあげられる先生になる

ために、日頃から人と丁寧なコミュニケーションを取る大切だと思う。私は、人の良さを見つけ、人の考えはそれぞれがうという視野の広さを持っているので、自分の意見を主張する芯の強さと、相手の気持ちを分かってあげようとする優しさを兼ね備えた人になりたい。友人だけでなく、部活、係、委員会活動などなるべく多くのグループで多くの人と関わり、積極的にコミュニケーションを取り、経験を積みたい。すべての人間関係が上手くいく訳ではないけれど、失敗・反省することで人として厚みのある人間になれると信じて頑張りたい。

「凡事徹底」当たり前のことを当たり前にやること。私が尊敬する先生に教わった言葉で、日頃から意識しているが意外と難しい。三つのすべきことを頭では分かっているけど、気分が乗らないと当たり前のことができなくなってしまう。折角はつきりとした将来の夢があるのだから、気分のムラを減らそうと自分に厳しくなっていて、本当に困った時に周りの人に助けってもらえるよう、人に優しい人間になりたい。人の意見を柔軟に受け入れる素直な気持ちを持ち続け、今やるべきことを確

実にこなし、それを一日一日積み重ねたい。

「ちりも積もれば山となる」私の過去・現在・未来の努力が報われるかどうかはすべて自分次第なので、投げ出す訳にはいかない。

生徒が立派な大人になれるよう、しっかりサポートできる先生になることが目標だ。生徒一人一人に合った声かけができるように、自分に自信のある大人になりたい。「百聞は一見にしかず」やりたいこと・すべきことは、すべて体験してみても、自分の言葉で語れる人になった時、お手本としている昔の担任の先生のようにになれるかもしれない。

挨拶から始まる日常

川口市立高等学校附属中学校

一年 下畠 碧莉

私は、日常にする「挨拶」について考えました。皆さんはどうして挨拶は必要だと思いますか？私は、されたらうれしいから、そんな理由もありますが、一日を活発に、楽しく過ごせるようにするためだと考えました。

そう考えた理由は、小学生の頃の出来事がきっかけです。小学校に入学してまもない頃、とても驚いたことがあります。それは、朝のおはようがないことです。幼稚園では朝の友達や先生への挨拶で一日が始まる、それが当たり前でした。しかし小学校では、登校班でも挨拶がなかったのです。初めは変だと思いましたが、日に日に当たり前だと思うようになってしまいました。ある日、挨拶について調べることにになり、私は、「挨拶の効果」をくわしく調べることにしました。すると挨拶には五つの効果があることが分かりました。一

つ目は感謝を伝えること、二つ目は存在を認めているのを示せること、三つめは仲良くなるきっかけとなること、四つ目は印象に良さを与えられること、五つ目は緊張をほぐせることです。三つめは感じたことのある人も多いのではないのでしょうか。私もこのように感じたことがあります。中学校入学時、私には知っている友達がなくて、挨拶も積極的にできていなかったため、不安でいっぱいでした。そんな中、後ろの席の子が私の忘れ物に気づいて届けてくれました。私もすっかりとした声で、「ありがとう」と言うことが出来ました。友達の親切ももちろんですが、この挨拶も一つのきっかけとなり、会話も増やしていくことが出来ました。私はこの体験から挨拶は人の心を動かすことができる、そう思うようになりました。また、挨拶をすることで前頭葉の一部にある「言語野」を刺激することもできるそうです。言語野は情報を集めて判断する機能をもっていて、活性化していると情報をまんべんなく拾うことができます。いちばん効果のある言葉は、「ありがとう」で、会話がないう状態から言葉を立ち上げると言語野が大きく刺激されます。逆に低下していると、悪い情

報ばかりを拾ってしまい、損をしている気分になることになり、ストレスホルモンにも悪影響が出るそうです。愚痴ばかり言うとな脳機能も低下するようになります。つまり、「脳はきれいい好きで悪口が苦手」ということが分かります。このような効果があることを知って、挨拶一つだけでこのような脳科学にも影響が出て、心までもコントロールされることに驚きました。このことから朝の始まりの挨拶が、脳を刺激して、授業を活発にすることができるとも考え、挨拶を心がけるようになりました。すると、「挨拶をする」という新しい楽しみも増え、前よりも学校が楽しく感じるようになりました。私は小さい頃から大きな声で元気よく挨拶をすることができず、子ではなく、挨拶はすれば良いものだと思っていたのかもしれませんが。しかし、本当の挨拶の意味を知ってから、授業に臨む積極的な気持ちや友達との接し方が変化したような気がします。

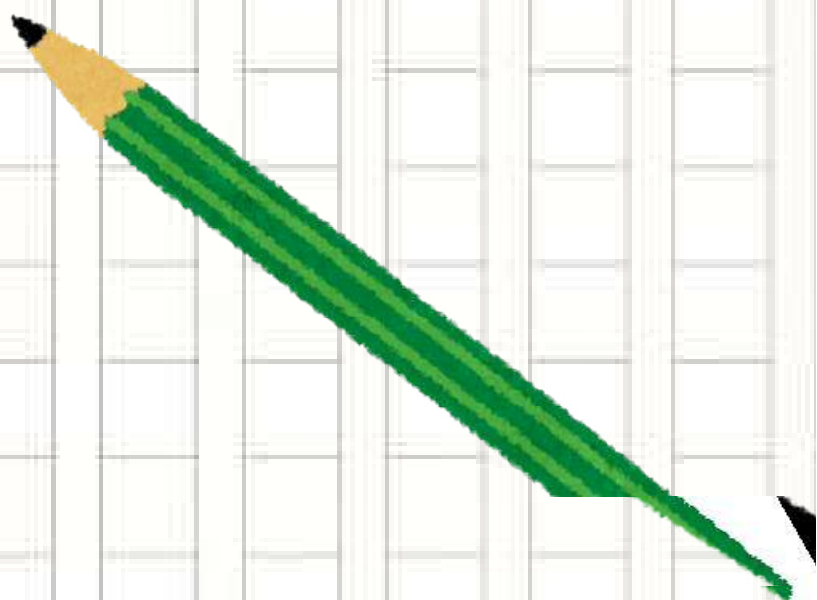
「挨拶が苦手」そう言う人がたくさんいます。私もそうでしたが、勇気を出して挨拶をするのが心げることでも挨拶が当然になり、日常で欠かすことのできない言葉になりました。そして、挨拶

で友達も増え、笑顔も増えるようになりました。挨拶の本当の楽しさを知れば、挨拶が苦手という人も減ると思います。初めは知っている人にも構いません。「明るい挨拶をする」ことが皆の日常となり、たくさんの人の頭の中に「おはよう」「ありがとう」などの挨拶が強く残ってくれば良いです。私ももっと大きな声でハキハキと積極的に挨拶をしていきたいです。



入

選



言葉の重み

原町小学校 五年 川島 理央

「言葉」、それは人の考えや気持ちを声や文字で表す言語のことです。言葉はとても気軽に使うことができる一方で、おそろしいこと、つまり相手を傷つけてしまうことに発展してしまう可能性があるのです。

何気なく言われた言葉が、悪口や自分を否定する言葉に聞こえた。言った人は、傷ついているということに気づいていない。というトラブルはひんばんに起きています。このようなことが起こらないためには、どうしたらよいのでしょうか。二つの考えを話します。

一つ目は、「発言する前に確認する」ということです。トラブルを起こす人の多くは、口数の多い人だと考えます。なぜなら、その分話すペースが早くなり、「本当に言っているのか」「だれも傷つかないか。」と、考えられる時間も短くなるからです。なので、少しペースを下げ、考える時間を増

やし、本当に発言して良いことなのか確認するところが大切なのです。

二つ目は、「悪いふんいきになった後に聞いている人が行動する」ということです。だれかが、相手を傷つけてしまうことを言った後、「そんなことないよ。」や「私は良い所だと思うな。」などと、傷ついている人に少し希望をあたえられるかもしれません。また、言ってしまった人も、「傷つけてしまったかも。」「悪い発言をしたかな。」と気づいて反省し、今後は気をつけようとしてくれるかもしれませぬ。スルーするよりも、勇気を持って寄りそうことで、傷ついた人を救える一歩になる方が、必ず効果がある。私はそう考えます。

トラブルは聞いていた人や言ってしまった人の意識で少なくできます。一番は、言わないように気をつけることですが、発展する前に冷静に考えるということも大事なことです。私は、「言葉の重さ」を感じて、これからも言葉を発し続けようと考えています。

私の大きな目標

差間小学校 六年 百武 美乃花

私には大切にしたい言葉が二つあります。

一つ目は「夢は逃げない。逃げるのはいつも自分だ」です。これは、実業家・高橋歩氏の言葉で、将来の夢について悩んでいた私にとって心にささるものでした。

何かやりたいことがある時に、全てのことはドアの鍵を開けて待つてくれています。しかし、何かと理由を付けて、やる前からあきらめてしまっていました。夢のドアは鍵を開けて待つているのに、そのドアノブに手をかけることができないのです。やる前からあきらめていたら叶うものも叶わない、挑戦するのも逃げるのも全て自分次第だと知りました。だから、私は逃げずに挑戦していききたいです。そのために、自分に自信を持ちたいです。今まで、他の人と自分を比べて、あきらめていたので、前の自分と今の自分を比べるようにしていきこうと思うからです。そして、夢から逃げ

るのではなく、「追いかけて」いききたいです。

二つ目は、「縁の下の力持ち」です。この言葉は、人の目につかないところで他人のために苦労や努力をする人のことです。私は、ドキリとしました。なぜなら、自分の事しか考えていなかったことに気がついたからです。

「優勝」を目標に全力を出した運動会。みんなと力を合わせて頑張りました。結果は優勝でした。みんなで喜びました。そのときの私は、自分と仲間だけの力だと思い込んでいました。ですが、ちがいました。自分たちだけではなかったからです。ずっと応援してくれた家族、指導してくださった先生……。たくさんの方が支えてくれていたから良い結果が出せたこと知り、感謝の想いでいっぱいでした。だから、私にできることをしたいと思います。今は、感謝をすることと期待に応えられるように頑張ることしか出来ませんが、いつかは私がだれかを支えている存在になりたいです。だから私は、夢や目標をあきらめず、失敗しても立ち向かう強い人でいたいです。また感謝を忘れずだれかを支えている、そんな存在になりたいです。

この二つの言葉を大切に、将来を歩んでいき
たい。それが私の大きな目標です。

「大切なのは、一回の挑戦」

差間小学校 六年 藤原 実柚

私が大切にしたいことは、「千回のあこがれより一回の挑戦の方がずっと価値がある。」という言葉
を忘れずに生きていくことです。

これは、サミュエル・スマイルズという英国の作家の言葉です。この言葉とは、本の中で出会いました。最初に見たとき、私は「これを座右の銘にしたい。」と強く思いました。なぜなら、いつもあこがれてばかりだったものに思い切って挑戦して、良い結果になった私の体験にぴったりだったからです。

五年生のころの私には、あるあこがれがありました。それは、「児童運営委員会の委員長になって色々な取り組みを全力でしたい。」というものでした。なぜ、そう思ったかは分かりません。でも、もしも私になれるなら・・・という想像をすると楽しくてたまりませんでした。

そのようなあこがれをいדיきながら、五年生も終

わりに近づいてきました。いよいよ私も、本当に六年生になったら運営委員会に入るのか真けんに考えはじめました。そもそも、運営委員はクラスで男女一人ずつしか選ばれず、立候補をする人が二人以上いたら、スピーチをした後、全員に投票をしてもらって決めなければなりません。さらに私は、人前に立つのが苦手だったため、「自分には無理かもしれない」という考えに変わっていきま
した。

でも、私はあきらめませんでした。このような考えが出てくるのは、自分に自信がないからだという結論に至りました。そのため、スピーチの練習をたくさんして「自分はこれだけ練習したのだから、きつとできる」という自信につなげました。それに加え、口で「私の夢は児童運営委員長になることです。」と宣言することで、自分に勇気をあたえました。

全力を尽くして、私は当日にいどみました。「じやあ、児童運営委員会になりたい女子はいるかー。」手を挙げた人は、六人ほど。想定よりも多い人数でした。私は、きんちようしましたが、全員の前に立ち、スピーチを始めました。すると、ふつと

きんちようが消えました。初めての感覚を味わいながら、今までの中で一番良いスピーチをすることができました。そして、結果は当選。とてもうれしくなりました。

これは、ずっとあこがれていたことを一回挑戦することにより実現できた体験です。「あこがれ」をかなえるには、「挑戦」が大切だということが、この体験で分かりました。そして、私は今運営委員長。つまり、一回の挑戦が未来を明るくしたのです。だから、「千回のあこがれより一回の挑戦の方がずっと価値がある」という言葉を大切にして生きていきたいと思います。

大切な自然

里小学校 五年 生田 実央

わたしは、自然を守っていききたいと思っている。理由は三つある。

一つ目は、小学二年生の一年間、家族みんなで川口の見沼自然の家で行われた自然観察会に参加したことだ。案内の先生に、「これは絶滅危惧種でね」との言葉がある。多くの生き物に出会い、季節の移り変わりを感じるとともに、失われていく命を救うため、この環境を守ろうと活動している人達がいると知った。もつと多くの人がこういった活動を知り、豊かな自然が残るといいと思った。また、国語の教科書でも「固有種が教えてくれること」を読んだ。日本だけにしか生息していない固有種がいるが、それはゆたかな環境があるからだと筆者は書いていた。改めて、ゆたかな自然が大切だと思った。

二つ目は、「SDGs」の本からだ。ここには、日本は雨がたくさん降るのに、将来は水不足にな

ってしまおうと書いてあった。降った雨は、日本特有の急勾配の地形により海や川へと一気に流れ出てしまい、陸地にとどまる水は限られてしまう。実際に私たちが使用できる水の量は、人口一人あたりにかん算すると、世界平均の二十五パーセント程度になってしまおうとも書いてあったことも理由の一つだ。

三つ目は、父親の仕事の一環に、食品ロスを減らす取り組みをしているからだ。食品ロスを減らさないで、資源のゴミがムダになり、ゴミが増える。焼きやく時に、二酸化炭素がたくさん排出される、自然環境がこわれるという、大問題が起こる。岡山の祖父母が育てて送ってくれた大根の葉を、捨てずにふりかけにしてくれた母。大事に食べなきゃと思った。また、カレーにとうふやきゅうりなどを入れて作ったら、とてもおいしかった。

これまでをふり返って、学校から持ち帰ったさなぎを、父と何度もみかんの葉をとって育てた。とてもかわいかった。この自然を、未来の子ども達が楽しめるように、もつともつと、自然を大切にしていきたいと思った。

自分が取り組めることは、残さずしっかり食べ

ることやいらなときは電気をこまめにけすことなどだ。このように、自分が取り組めることは、子どもだから少ししかないけれど、やれることはやっていって、地球温だん化が進まないように取り組めることはどんどん進んで取り組みたい。

最高の思い出

里小学校 六年 小宮山 庵

「はあ…はあ…はあ…」
今日は持久走大会当日だ。校庭を出た時、僕の順位は八番目だった。

僕は持久走大会をととても大切にしている。一年生の順位は四十八位。大切になんかできなかった。好きですらなかった。それが変わったのは2年生の時。「このままでは楽しめる行事も楽しめない」と思い、習い事でバスケツトを始めた。そこから練習が大変だった。きつい走り込み、フットワーク、体幹など、様々な練習が僕を苦しめた。「これで速くなれる」その気持ちがあれば僕は辞めていたのかもしれない。辛い練習を乗り越えて挑んだ2年生の持久走大会。結果は十四位。タイムも前年より大幅に縮まった。嬉しかった。今までの辛い練習が全て「力」へと変わったのだ。その頃からだと思う。大切にしていた。好きになっていった。持久走が・・・。

その後も練習を怠らなかったおかげで順位やタイムは伸びていった。昨年の順位は十二位。そして6年生になった今、更新するしかないと思っている。当日の朝、

「おはよう」

学校の準備をして朝ご飯を食べた。学校に登校した後も持久走大会のことしか考えられていなかった。正直、学校の授業には集中できていなかった。準備をして外に出た。待ち時間が異様に長く感じられる。スタートラインに立った。スタート位置は七番目だ。

「よいい、パアン！」

銃声が鳴りひびく。ハイペースで校庭二周をぬけた時、八番目だった。しかし、周りのペースにとられずに自分のペースを保った。最初の橋で一気に三人ぬいた。いよいよ折り返しだ。後ろからせまってくる足音、少し先に行く人の荒い息などが混じって聞こえた。全力で走る。一つでも前へ行くために。最後の橋を越えたとき、勝負をかけた。相手が急なカーブで減速した瞬間にスピードを上げる。相手もスピードを上げて応戦してきた。激しい競り合い。夢中になって走った。いつのま

にか抜けていた。四位に浮上した。そのまま校庭に入った。残り百メートル。すでに前の三人はゴールしている。「四位だ。」そう思った瞬間だった。後ろからどんどん大きくなってくる足音に気付いたのは。相手はラストスパートをかけてスピードを上げてきた。もう差はない。横一列に並んだ。残り二十メートルを切った。スピードは一段と上がった。ついていくのがせいっぱいだ。そのままゴールテープを切った。

「4位。」

先生からそう言われた。勝った。勝ったのだ。

僕は、持久走大会を通して努力や練習の大切さを知った。それらの練習が小学校生活最後の持久走大会に最高の思い出をつくったのだと思う。この結果に満足せず、これからも更なる高みを目指していきたい。

感情

里小学校 六年 金野 莉愛

感情。私が大切に行っていること。嬉しい、悲しい、悔しい、楽しい、素晴らしい、綺麗、驚き、怒り、妬み。人間には数えきれないほど感情がある。それを大切に生きたい。

感情は「時間」を変えていくのだ。嬉しいことがある時は時間がとても短く感じる。反対に、怒りがある時は時間が長く感じるのだ。人間には感情があるから「体感時間」というものがあるのだ。人はこの話をする、自分にプラスなことは短く感じ、マイナスなことは長く感じると考えるのだ。しかしそうではない。例えば、インターネットショッピングで買った服は、三日後に届くとしても。その買った服は、ずっとほしかったものだ。だからとても「楽しさ」なのだ。楽しさはプラスの面に捉えられるだろう。しかし楽しみに届くのを待っていることで普段の3日よりとても長く感じるのだ。あなたもその経験があるだろう。

次は楽しさではなく「楽しい」ならばどうだろう。友達と話している時、とても楽しく笑っている。その話している時間は短く感じるだろうか、長く感じるだろうか。それは、きっと短く感じるだろう。

「楽しさ」と「楽しい」一見同じように見えるが、実は大きく異なるのだ。「楽しさ」は時間が長く感じる。その反対に、「楽しい」は時間が短く感じるのだ。

人生において、時間が長く感じたり、短く感じることもあるだろう。時間が長く感じすぎても、短く感じすぎても良くない。だから、体感時間にバランスを持たせることで生きることが楽しくなるだろう。休み時間までの授業時間は、話すことが楽しみなので時間が長く感じる。休み時間になり友達と話すときは楽しいため、時間が短く感じる。楽しみの気持ちが大きければ大きいほど、楽しいという気持ちも大きくなるのだ。

これから、たくさんの感情に出会い、体感時間も、長く感じたり、短く感じることもある。一つ一つの感情は人によって捉え方、動機は異なる。だから、相手の感情も否定してはいけない。自分

の感情にも否定してはいけない、うそをついてはいけないのだ。だから、これから出会う感情に一つ一つ理解しなくてはいけないのだ。怒り、妬みがあってもいい。あつたほうがいい。その感情を抱いている自分を知り、これから生かしていくことが大切である。

だから、私の大切に行っていることは感情なのだ。

「思いやりを持つて」

南鳩ヶ谷小学校 五年 谷口 香穂

私が大切にしたいのは、「他人への思いやり」だ。

よくあることだが、満員列車の中で、優先席の前に立っている、お年寄りの方。優先席にすわっている、学生。そんなシーンが想像できるだろうか。その学生は、お年寄りの方には目もくれず、スマホをいじっている。周りの大人たちも、スマホ、スマホ、スマホ。大人たちは、かわいそうだとは思わないのだろうか。この辛そうに立っているお年寄りの事が。これが「よくあること」だとは、私はとても悲しく思う。「思いやり」があれば、こんなことにはならないはずだ。中には、助けてあげたいけれど、助けてあげられない人もいるのではないだろうか。

これは、よくあることかは分からないが、こんな話を、聞いたり、見たりすることがある。ちよっかいをかけている男の子、ちよっかいをかけら

れている、男の子。その人の見方によっては、その現場が「いじめ」に見えることもあるだろう。なのに、止めようとしれない、他の子供たち。なぜ止めないのか？それは、「自分が助けてあげれば、いじめが自分に向けられるかもしれないし、」という考えや、「自分が助けてあげなくても、他の人が助けてくれるだろう」という考えが、「思いやり」よりも、とても大きいからだと思う。そのような考えのせいで、ちよっかいをかけられている男の子は、辛い思いをするだろう。

このようなことを無くすためには、いったいどうすればよかったのだろうか。「思いやり」の気持ちが勝って、人を助けるためには、どのようなことをやればよいのだろうか。私は、常に「思いやりの気持ち」を大切に生きていけば、人を助けることが自然となり、恐れることなく立ち向かうことができると思う。ほんの小さなことでいい。日常の中のささいなことに、「思いやり」を持つて行動すれば、今まで積みあげてきた「思いやり」が、大きいことに立ち向かえるようになるかもしれない。

だから、私は「思いやり」を大切に生きて

いき
たい
。

将来の夢を叶えるためにすべきこと

東中学校 三年 本田 蒼依

私の将来の夢はヘアスタイルストになることだ。ヘアスタイルストになりたいと思うようになったのは中学二年生の時だ。きっかけは友達の髪を結んだり、アレンジして褒めてもらったことで自分はこの仕事をしたいと思った。小さい頃から、自分で髪を結んだりするのが好きで母にほとんど髪を結んでもらうことがないくらいずっと結んでいたのを覚えている。

しかし、小さい頃からずっと髪を結ぶことをしていたのに小学生から中学一年生までは将来の夢を聞かれたり、作文に書く時たくさん将来の夢が毎回変わっていた気がする。前の自分はきつと夢に向かえる自信がなかったんだと感じた。自分の夢はどんな仕事かも調べたことも全くなかったし、その夢を本当に叶えたいのかさえもわからなかったのだ。

まず一つ目に夢を叶えるためにすることは自

分の興味があることや、夢のことについてたくさん調べたり夢までの道のりなどを知ることが大切であると思った。たくさん調べて知ることが自分が本当にしたいことがみえてくると思うし、やりたいことがなくても興味をもてば自分に夢ができるかもしれないと思った。また、いろんなことに挑戦することも大事だと思う。できるかできないかはわからないけど、挑戦することでもしかしたら上手にできるかもしれないし、むしろ自分に合わないと思ったらまた新しいことに挑戦して得意なこと、好きなことに出会えたら自分が将来やりたいことがわかれると思った。私もそうだ。自分では分からないヘアアレンジや結び方を調べてそれが知らないうちにできるようになって、たくさん新しい結び方を覚えてそれがいつの間にか自分の特技になっていった。自分の中では当たり前になっていることも、友達や家族などに褒めてもらえることがうれしいし、すごくやりがいを感じることもあった。

二つ目に夢を叶えるためにすることは、目標を持つことだと思う。自分のやりたい仕事のために、どこの高校にするとかその高校に行くためにはど

れくらい勉強をするなど具体的な目標が大切だと思った。私がしたい仕事は、美容師の一部に入る仕事だから理科や数学の勉強を必死でがんばらなければいけないと思った。そのために、理科と数学の問題がわからないと思ったらすぐ先生に聞き、わかるまでたくさん解くことが大事だと思った。私は勉強がすごく苦手だし、全然できないけれど自分がやりたいことのためなら今からでもコツコツがんばり自分の夢を叶えて実現したいと思った。苦手なことからも逃げないで、乗り越えられるようにこれからは難しい問題も自分で考えて、最後まで解けるようにしたい。

三つめは、自分がやりたいことを好きでいることが大切だと思った。自分の夢に向かって進んでいく時、「楽しい」という気持ちをもっていればどんなこともがんばれると思う。私も友達や妹の髪を結んでいる時が一番好きだし、やった後に「すごく上手」と喜んでもらえると私は本当にその時がすごく幸せだ。なので、どんな時も夢を追いかけてよかったと好きでいられるようにしたい。

最後に四つ目は、諦めないことだと思った。ヘアスタイリストの仕事は美容師の一部の仕事に入

るので美容師の勉強をしなければならぬのはもちろんで、ヘアスタイリストになれるまですごく時間がかかるかもしれない。もし、自分のやりたい仕事ではなく、髪を切る仕事になって、やりたいことが途中で遠ざかったとしても絶対に自分のやりたいヘアスタイリストができるように最後までがんばりたい。これからヘアスタイリストになるまで国家試験など美容師になるためのテストがたくさんあって大変かもしれないが、自分が叶えたい夢のために、全部のことに常に全力でがんばって、夢を叶えられるようにしたい。

将来に向けての道

南中学校 二年 大澤 杜和

私の将来の夢は心理カウンセラーになることです。

私は前に部活のことなどですごく悩んでいたことがあります。その時に仲の良い友達に相談にのってもらい、気持ちが楽になって前よりも部活や学校が楽しくなりました。私がその友達に相談にのってもらってすぐ救われた気持ちになったように、自分も誰かの相談にのって役に立ちたい、その人を少しでも元気にしてあげたい、と思い心理カウンセラーになりたいと思うようになりました。

心理カウンセラーにもいくつか種類があります。その中でも私はスクールカウンセラーのような学生の相談にのる心理カウンセラーになりたいです。今の学校生活はきつと将来役に立つと思うし経験を重ねておきたいと思います。だから今から学校で色々なことを体験してスクールカウンセ

ラーになれた時に、悩んでいる人の悩みをちゃんと理解できるようにしたいです。

心理カウンセラーにむいている人は、共感力の高い人、問題解決能力が高い人、相手の長所を見つけることができる人などです。また、自律神経失調症やうつ病のような病気についても勉強する必要があります。それを勉強した上でも、まだ身につけなければいけない力はたくさんあります。

身につけなきゃいけない力の中でも日常の中で身につけられるものがあります。例えば、人の話をよく聞く力や相手の長所を見つける力です。カウンセラーは人の悩みを聞く仕事なので人の話をよく聞いて、相手を少しでも安心させてあげられるようにすることが大切です。

日常に中で友達や家族と話す時にもちゃんと相槌をうちながら聞いたり、途中であまり口出しをせず最後まで話を聞くということを意識しようと思います。また、私は普段友達と話すとき、自分から話し始めたりそのまま長く話してしまうので、そこをなおせるようにしたいです。そして、周りの人から少しでも頼ってもらえるようになりたいです。

相手の長所を見つける、というのは人と関わる上でとても大事だと思います。長所を見つけないのは相手のことをよく見ていないと分らないので、気遣いなどできる人は長所を見つけれられると思います。なので、私も相手のことを気遣ってその人の長所を見つけれられるようになりたいです。話を聞く力をつけるだけではなくて、うつ病など心の病気について今のうちに勉強しようと思います。今、理解を深めてその病気に対しての考えをまとめておけば将来に役立つと思うからです。

カウンセラーは色々な勉強をしたり、なれるまではすごく大変だけどその分色んな人の相談にのってその人達を救う、とてもやりがいのある素敵な仕事だと思います。

世の中には、いじめを受けている人や色々な悩みをかかえている人がたくさんいます。その中には、たえきれずに自ら命を絶ってしまう人もいます。そのような人を一人でも救うために、カウンセラーという職につけるように頑張りたいと思います。

今も周りに悩みをかかえた人がたくさんいるはずです。悩みを自分から打ち明けるといえるのは

とても怖いし簡単にできることではないので、自分が気づいて相談にのってあげられるといいな、と思います。そして私がその人の味方になってあげたいです。きっと味方が一人でもいるだけで気持ち楽になると思います。

これから、カウンセラーになるための知識をつけて、たくさん勉強していききたいと思います。

自信をもつて

安行中学校 三年 角海 風沙

「医療の職に就きたいです。」三者面談などで将来の夢を聞かれとき毎回こう答えている。

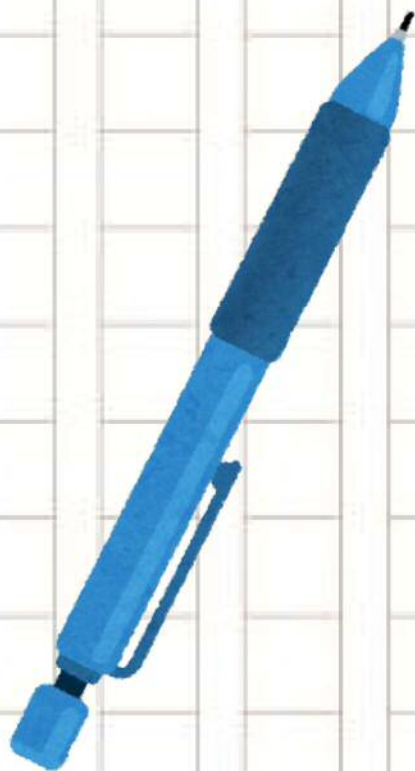
小学生のころから医療の現場で働き人のためにになりたい、ただそういう風に考えていた。中学二年生になり行きたい高校、将来なにをするか、よりくわしく考えるようになった。考えていくうちに一つの不安が頭の中をよぎった。職業に関するサイトをみていたときだった。それにはどれも「思いやりがあつて不安を取り除くことができる人」や、「コミュニケーションが得意な人」などと書かれている。私は、今までに思いやりをもつて少しでも行動できただろうか、色んな人とうまく関わることでできていたのかこの二つの不安で頭の中がいっぱいになった。自分の思いやりやコミュニケーション能力は自分ができていると思ひ込んでいても、他の人から全くできていないと思ひわれてしまったりと人によって感じ方が違うもの

だ。だから、私にはそのような思いやりについて本当に自分が医療の仕事に就いたとき他の人と同じようにやっていけるかとても不安になった。医療の仕事は、命を扱うとても重要な仕事で、それなのに中途半端な思いやりやコミュニケーション能力をもった私が目指していても良いのだろうか。もちろん目指すことは自由だし、誰にでもできることだ。けれども、私はこんな中途半端な自分で将来を目指したくない。自信をもつて医療の仕事に就きたい、そう考えた。しかし、思いやりとは、色んな人が見えているところだけでやればばいいなどと考えたが、そうではないと思う。人の目がないところで積極的に動いていくこと、それも思いやりの一つでありとても大切だと思う。私は、将来の夢を叶えるために今から思いやりとコミュニケーション能力を持ち合わせた人になりたい。だから、思いやりやコミュニケーションをもつために簡単に身近なことから始めていこうと思う。例えば、思いやりに関してなら周りに感謝の気持ちを持ちながら生活をしていくことだ。私が今からこうして元気に生きているのは両親が小さいころから愛情込めて育ててくれたからだ。

また、悩みがあったりして辛いとき話を聞いてくれたり、アドバイスをくれて解決をすることができるのは友達のおかげだ。他にも色々な面で支えられて自分らしくいることができている。私は今まで両親、友達、先生がいることが当たり前の生活になっていた。だけど、今こうして生きていける理由に気づくことができた。だから今の生活を見直して思いやりのある人間になっこの。感謝の気持ちを持つことができたなら、次は行動にすることが大切だと思う。例えば、お世話になっっている家族や友達、先生への感謝を言葉にして伝えるということだ。何気なくやっているように思えることだが、ただ言っているだけであつたりと日頃の感謝までは伝えきれていない。少し恥ずかしい気持ちもあるが思い切って言葉にして伝えていこうと思う。また、コミュニケーション能力を持つために自分の意見や考えを相手にはっきり伝えられるようにしていきたい。私は、根拠のある意見を考えたり、それを人の前で発表することがとても苦手だ。だから、友達や家族の前で自分の意見を主張してみたりして、慣れていこうと思う。

この二つの思いやり、コミュニケーション能力をこれから身に付けていき、自信がついた状態で将来へと向かっていきたい。この中途半端な自分を変えて、人を助けられるようになりたい。言葉で言うだけでなく、行動で表せるようにしたい。

佳作



「ありがとう」の気持ちを

差間小学校 六年 東 凜花

私がこれから大切にしたい言葉は、「なりたかった自分になるのに遅すぎるということはない」という言葉です。私は、普段から友達に何かをしてもらったとき、感謝の気持ちを忘れずに、「ありがとう」と言うように心がけています。また、だれかに何かをしてあげる、思いやりの気持ちをもって生活するようにしています。これは、当たり前にしなくてはいけないことです。しかし、「ありがとう」という相手が家族だった場合、私は、友達と同じように言うことができません。

いつもお母さんは、ごはんを作ってくれたり、洗濯をしてくれていて、お父さんは、家のためにたくさん働いてくれていて、私は、感謝の気持ちが本当にいっぱいあります。去年から、新型コロナウイルスが流行して、外に行けず、家にいることが多くなりました。その中でも、「ありがとう」と言う機会は、たくさんありました。けれど、家

族はいつも一緒にいて、何かをしてもらうことが、当たり前になってしまっています。私は、これを変えるために、何かできないか、とてもなやましました。考えた結果、素直に気持ちを伝えることが、一番良い結果なことが分かりました。けれど、いざ家族の前に立つと、「ありがとう」という、短い言葉ができません。私は、あと一步の勇気が出せないのです。そんなときに出会ったのが、「なりたかった自分になるのに遅すぎるということはない」という言葉です。国語の授業で、自分が大切にしたい言葉を調べていたとき、友達に本を借りました。その本の中には、たくさん名言が書いてあって、私が一番気に入ったのが、ジョージ・エリオットさんの言葉でした。私は、初めてこの言葉を見たとき、自分自身ハッとさせられました。「人は、いつでも、どこからでも変わることができる」という、とても簡単な事にどうして気がつかなかったのだろうと思いました。

私は、まだ、なりたい自分になっていません。でも、まずは自分は今なら変われると信じる事から始め、なりたい自分になるために、自分のやるべき事を見つけて、それを続けていくという事

を心がけていきたいです。そして、いつかは、何かをしてもらうことを当たり前にするのではなく、だれにでも感謝の気持ちを忘れずに生活していくことを当たり前にしていきたいです。

「創作は常に冒険である」

差間小学校 六年 大森 菜々美

私は、「創作は常に冒険である。」という言葉を大切にしたい。この言葉は、芥川龍之介の小説にあった一言だ。そして、私の座右の銘である。

私は絵を描いたり、何かを作ったりすることが好きだ。私には、絵を好きな理由がいくつもある。それは自分が、絵の世界に冒険したかのようにたくさんあった。

二年生の時、私は父と一緒に美術館に行った。そのときはまだ、興味も関心すらなかった。その美術館は当時、ゴッホの絵を展示していた。入ったときとてもおどろいた。その繊細さは、今でも忘れられない。

お昼ご飯を食べている時ふと父に私は、「どうしたら絵が上手になるの。」

そして父は「毎日一枚絵を描くと、上手になる。」と聞いた私は、毎日一枚絵を描くことにした。そ

のとき私は、絵の世界への冒険へと一歩ふみだしたようだった。

五年生になった私は、だんだん絵の世界の中へ行っていたが、賞状をもらった事は一度もなかった。なんだかとても悔しくなった。だから私は、一体何の絵が得意なのかふり返った。そしてたたくさんの桜の絵があった。ある日、図工の絵で桜を描いてみた。すると、その絵は賞状をもらうことになった。とてもうれしかった。何かの壁を越えたような気がした。その時、私は何が分かったような気がした。今までの自分は描きたい物を描いていないような気がした。そしてまた一歩絵の世界へふみだしたようだった。

六年生になった今私は、小説を読むようになった。私の好きな小説家は芥川龍之介だ。

日曜日私は、芥川龍之介の小説にこんな一言があった。「創作は常に冒険である。」この言葉を見て私は、自分と重ね合わせた。そうして今、自分の座右の銘である。

そして今私は、こうして何かを作っている。自分の得意なことをどんどん広げていつている。この言葉のように私は、色々なことをやってみたり、

挑戦したりしていきたい。時には挫折をしたりすることもあるだろう。しかしこの言葉を思い出してあきらめないようにしたい。「創作は常に冒険である。」これが私の座右の銘だ。

とても大切な本

里小学校 四年 鈴木 結愛

わたしは、本をととても大切にしています。わたしのことをむちゆうにさせてくれるからです。

みなさんは、本をよく読みますか。本をたくさんもっていますか。本が好きですか。わたしは図かんがとくに好きです。読むのが好きなので、今では百さつ以上あります。妹も弟も、それをよく読みます。それだけ本を大切にしている理由を四つ挙げます。

一つ目は、知らなかったことを、教えてくれるからです。本を読むと、知らなかったことがたくさんつまっているのです、新しいことが知れます。そうすると、ふだんの生活で役に立ったり、他の人におもしろい話を知ってもらえたり、いろいろなうれしいことがあります。もちろん、たくさんの知しきが頭にそろえば、自分のためにもなります。これが、本を大切にしている一つ目の理由です。

二つ目は、読んだあと、大きなたっせい感を味えることです。本は、短いものや長いものもあります。とくに、長いものは、読むのに時間がかかります。読んだあとに大きなたっせい感を味わえます。物語は、人物の気持ちになって読んだり、物語の後に、どのようになったかを考えるだけでも楽しめます。辞典は、知っている言葉も読むと、より正しい使い方を覚えることができます。このように楽しみながら読んでも、たっせい感はとても大きいです。これが二つ目の理由です。

三つ目は、自分に合った本を選ぶことです。本には、物語、童話、神話、図かん、辞典などと、いろいろあります。調べたいことがあるなら、図かんや辞典がいいです。物語、童話、神話は、新しいものをどんどん読んでいって、たくさん本を読めるようになれると思います。これが三つ目の理由です。

四つ目は、楽しみ方がたくさんあることです。二つ目の理由で言ったように、物語では登場人物の気持ちになって読んだり、物語の後にどのようなかを考える楽しめです。辞典は知っている言葉を読むと、意外な意味を知れて楽しめます。

す。他にも、読んだ本を記録したり、辞典にはふせんをつけてどりよくのあとをのこしたりと、さまざまな楽しみがあります。これが、四つ目の理由です。

しょうかいした四つの理由は、本がきらいな人にも知ってほしいです。でも本は、みんなの一生の友たちです。これからも、ずっと本を大切にしていきたいと思います。

大切な食べ物

里小学校 五年 桐村 莉央

わたしは、毎日おいしい食べ物を食べています。しかし、なかには食べ物をおなかいっぱい食べられなかったり、飲む物がない。あったとしても、きたない水や飲むことができない水しかないのです。そんな、苦勞な生活をしている人がたくさんいるそうです。

それなのに、今は食べ物の廃きが問題になっています。あの、「東京オリンピック」でも食べ物の廃きが問題になっていて、とても大変だったそうです。食べる物も飲む物もなく、貧しい生活をしている人達がいるのに、食べ物を「きらいだから！」「おなかいっぱいだから！」と残す子どもや大人もいます。できる限り、食べ物の廃きはなくさなくてはいけません。そのために、私は食べ物の廃きをなくすための、自分にできることを考えました。

まず一つ目は、自分が食べれるぶんだけよそう、

もるということです。食べ物を廃きする人のなかには、「おなかいっぱいだから！」という人がいたので、最初にいっぱいよそうのではなく、ちよつとずつよそつて、まだ食べたいのなら、またちよつとずつよそつてをくり返すと、食べ物を廃きする人が少なくなるのではないかと考えました。

2つ目は、食べ物、飲み物を買うときについてです。食べ物、飲み物は、賞味期限がちかいものから買っていくということです。スープなどでは、賞味期限がきれてしまうとその食べ物、飲み物は、廃きになってしまうそうです。それをなくすために、賞味期限はちかい物を買ったほうが良いと考えました。でも、賞味期限がちかいとすぐにきれてしまう可能性があるのです。「1L牛乳」や「バター」「ジャム」など、1日では食べきれない、飲みきれないものは、賞味期限がながいものから買った方が良いと思います。

そして3つ目は、きらいな食べ物をおいしく食べるためにはどうしたらよいのか？ということですね。例えば、ピーマンがきらいだったら、ピーマンと好きなものを組み合わせ、食べるといふことです。この方法はつくる人にたのまないででき

ないことですが、これをする、また食べ物の廃
きが少なくなると考えました。

自分が、これらの方法をためてみることで、
世界は変わるのではないかと思います。世界中の
みんなが食べ物を大切にして、私も食べ物をむだ
にしないようにしたいと思います。そして、世界
中のみんなが幸せに暮らしてほしいです。食べ
物・飲み物を残さず食べるということが大切な
のではないのでしょうか。

二つの言葉の感謝

里小学校 六年 宮内 志帆

私が大切にしたいことはたくさん、命をいただくことです。人は一日三食ごはんを食べていますが、そのほとんどが、もともと命があった生き物です。

私たちはごはんを食べる前に

「いただきます。」

という言葉が自然に発しているし、食べ終わった後も

「ごちそうさまでした。」

と言っています。この二つの言葉をただ言っていることが私にはあります。

ある日、私は外国語教室に行きました。その時に犬を食べている国があることを知りました。その絵はとても苦しそうでした。私の家では犬を飼っているのです、とても悲しくなりました。そのことを家に帰り母に話すと、

「それは悲しいね。だけどみんなも牛や鳥、ぶた、

魚を毎日食べているじゃない。」

と言われ、ハッとしました。私は自然に食べて当たり前だと思っていたので、今まであまり気にしていなかったのです。

「おいしいな」と思ったり、「食べたいな」という気持ちしかなく、ありがとうなどの、感謝がなかったし、自分の口に運ぶまでにかかわりのある人のことも考えていませんでした。命をいただくことだけではありません。他にもお金がなくてごはんが食べられない人もいるし、水さえもらえない人もいることをそのとき改めて知りました。なのに私は、ごはんを残したり「おいしくない」と感じたりしていました。学校でも早く食べたいから、手をあわせずに言っていました。そんな自分を今思うと、

「あそこでしっかりと感謝しておけばよかったな」と後悔することがたくさんあります。

私は、今まで「いただきます」と「ごちそうさまでした」の二つの言葉の意味なく言っていたし、何も考えずに当たり前だと思って食べていました。私は大人になって、子どもが産まれてごはんを作ったのに手をあわせずに「いただきます」と言わ

れたり、感謝されなかったらすごくいやな気持ちになると思いました。なので、私もこれからできることを行ったり、「いただきます」と「ごちそうさまでした」という二つの言葉を大切にしたいです。

大切なこと

里小学校 六年 稲留 双葉

自主学習。私がそれを大切にしましたのは六年生最初の五十問テストがきっかけだった。

私はテストのために自学でたくさん練習をした。毎日四ページ以上練習した。テストを予想して問題を解いたし、丸つけも本気で行った。私達のクラスでは、五十問テストの他に、熟語チャレンジというものがある。五十問テストに出てきた新出漢字で何個の熟語を書けるのかためすチャレンジだ。私は、点数は100点。熟語は二百個以上書くことを目標にしていた。

「ここまで練習したから絶対に大じょう夫だ。」

という気持ちと、

「もし本番で間ちがえたり、忘れてしまったらどうしよう。」

という気持ちの両方があって、とてもきん張していた。

「それでは、始め。」

という先生の声が教室中にひびきわたった。私は問題を解き始めた。手がきん張でふるえていたが、えん筆をにぎりしめてそれをかくした。問題を見ると、すぐに手が動いてすらすると問題が解けておどろいた。一度自学で行った問題も何個かあった。そのおかげですぐに五十問解き終わった。見直しを二回した。全部合ってる。熟語チャレンジに移った。百五十個くらいまではたくさん思いついてどんどんかけたけれど、その後は少し思いつかなくなった。

「思いつかなくなった人は出しているですよ。」と先生は言った。でも、ここであきらめたら今までの努力や大変な思いがすべて無駄になってしまふような気がした。私は、今までの自学ノート用のページを頭の中で思い出した。大じょう夫だ。まだ書ける。それから四十五分間ずっと熟語チャレンジに熟語を書き続けた。

「では、終了です。提出してください。」

先生が言った。書くことをやめて提出した。たくさん書けたと思う。その日の終わりの方に返さやくされた。結果は百点。熟語も二百個以上書いていた。目標をクリアできて、思わず、

「やったあ。」

という声が出た。とてもうれしくて、努力して良かった、と思った。

私はこの五十問テストで、努力は必ず結果に出るのだと分かった。その日のために自学を毎日行つて、そのおかげで目標を達成できたからそう思った。もうすぐ、二学期最後の五十問テストがある。そのために、私は自学で練習している。計画を立てて、それにそつて練習をしているのだ。努力は結果に出る。だから私は自学を大切にしている。

大切にしたいこと

南鳩ヶ谷小学校 四年 河野 ひかり

わたしには大切にしたいことが二つあります。一つ目は友達です。友達ってきくとたくさんの方がそうぞうできると思います。外で鬼ごっこをしたり、お話をしたりする、それが友達だと多くの人が思うでしょう。わたしは小学校に入ってから友達がたくさんできていろいろな子と仲良くなって気づいたことがあります。友達でもあんまり仲よくしてない子がいるということなんです。いつも同じ子と話して遊ぶようになっていたので、その他の子は友達だけど話して遊べていませんでした。ある日、いつも仲良くしてる子が休みでした。それしたら「あまり仲良くしていなかった子が多くて話したり遊びづらいな。」と思いました。その日から「いろいろな子と遊んでもっと楽しもう。」と思いました。中には相談にのってくれる子もいるので、「友達がいれば一人じゃない。」と思い友達を大切にしようと思いました。

三つ目は勉強です。みなさんは勉強が好きですか。きらいですか。わたしはきょうみがあることを勉強するのが好きです。勉強は、むずかしい、大変と思う人が多いでしょう。私も同じです。なかなかやろうと思わないでしょう。ですがやれば頭も良くなりせいせきもあがります。それはとてもうれしいことです。しょうらいのゆめをかなえることもかろうになります。いいことがあるならやろうと思ってるのもいいですが、む理にやると頭に勉強したことが入らず、そんなしてしまします。なのできょうみがあることからやって、楽しんでやった方が頭に入ります。「楽しむなんてありえない。」と思う子もいると思いますが、やってみたら楽しいかもです。無理なくやることで勉強はともいいものになります。なので勉強は大切なのです。

このように友達は自分にとってとても強いみかたで、勉強はむずかしいけどやるととてもいいものになります。だからこの二つは自分にとって大切で大事なものです。

「日々の努力は実を結ぶ」

南鳩ヶ谷小学校 六年 安達 駿太

僕が大切にしたいことは「今日成し得ることに全力を尽くす」ということだ。これは自身が生きる上で特に心がけていることだ。

僕がなぜこのことを大切にしたいかというところ、一日を悔いなく終わるようにしたいからだ。僕は四年生の五月くらいから中学受験の勉強をしている。僕は初めて勉強だけをする毎日のつらさを感じ知った。四年生の十一月、同じ学校のTさんが同じ塾に入ってきた。Tさんはとても成績が良く僕とTさんの実力は雲泥の差だった。一日一日すぎるにつれ僕とTさんの実力が遠のいていき、僕は精神的にもつらくなっていた。六年のある日、そんなつらい日々を解消してくれたのがこの言葉だ。母がポスターを買ってきてくれ、そのポスターの上に書いてあったのは「今日成し得ることに全力を尽くす」という言葉だった。僕はその言葉を見た時、ひどく感激した。自分は、全力を

尽くして取り組んでいる日とそうでない日があったということに気づかされた。また、自分の中では、全力を尽せば、差が縮まるかもしれない。といった希望を持つことができた。そして次の日から全力を尽して勉強をしていった。全力を尽して勉強をしたことによってTさんとの差が少し縮まった。自分がかよっている塾の点数では国語は思っている以上に低かったが、算数、理科、社会の点数は全力で勉強に取り組んだことによって点数が上がった。その時、全力を尽くせば点数が上がってくるということが分かった。全力を尽くさないで勉強していた自分に対してもっと勉強しておけば良かったなと後悔した。

僕もTさんや、このポスターの書いた言葉と同じように、今日成し得ることに全力を尽くすようにしていきたいと思う。中学校に行ったらとしても全力を尽くすことを大切にしていきたい。「今日成し得ることに全力を尽くす」ことが僕の中で大切にしたいことだ。

「私のヒーロー」

南鳩ヶ谷小学校 六年 横山 心音

私が大切にしたいことは、「友達」です。みなさんは友達と言われてだれを思いうかべますか？私は、一人、二人、三人・・・とたくさんの友達を思いうかべます。「絶対に一人！」と言われても選べるわけありません。そう、私の友達は私のヒーローと言ってもかごんではありません。ヒーローは私の人生の楽しみを変えてくれたのです。

例えば、私がおにごっこをしていたら、だれかの頭に私の歯におもいきり当たった時、ヒーローが「大丈夫？」と保健室につれていったことがあります。もし、この時私のヒーローがいなかったら・・・？と考えると私の歯がじゅうしようになったり、痛いままがまんをしていたかもしれない。考えるだけで、ゾクゾクします。ヒーローがいるだけで安心感がつき、とても心が温かくなります。

他にも、私がとちゅうから学校に来た日。また

は、学校を休んだ次の日の学校に来た時。教室に入ったとたん、「バーンッ！」とヒーローがとびこんできました。心も温かくなるくらい「ギュッ」とだきしまれました。「なんで休んだの？」と心配してくれたり、「やったー」と喜んでくれました。なんだかはげまされた感じでこっちが逆にうれしくなりました。

このように、過去をふり返れば、ヒーローのおかげで心が暖かくなることが何どもありました。もちろん、けんかもすることだって何どもありました。けど、けんかをしていたことも忘れ、いつのまにか笑っていました。自分でもふしぎなくらい笑っていました。今もヒーローがそばにいるのはヒーローとけんかや悲しみより、ヒーローと楽しく、笑っていた日のほうが何倍も多かったのです。例えば、私が助けてもらって、笑わされたほうが多いかもしれません。だから、次は私がヒーローになるばんだと、ヒーローにバトンをわたされた気がしました。今までヒーローが助けてくれた何倍もお返しして私の友達の大大大ヒーローになりたいです。

私に希望を与えた彼の言葉

榛松中学校 三年 熊谷 海

「君がどんなに遠い夢を見ても君自身が可能性を信じる限り、それは手の届くところにある」これはスイスの小説家ヘルマン・ヘッセが生前に残した言葉である。この言葉は私の人生に大きな影響を与えた。私は幼い頃から将来に夢がないのが悩みだった。だから学校でよく書く自己紹介カードの欄に「将来の夢」という項目があったり、何かの機会で会った人に将来の夢について聞かれるのがすごく嫌だった。したがって私は無意識に将来の夢について考えることを避けていた。しかし、ある日そんな私に転機が訪れた。あるチャンネルで大手企業のオフィスの秘密に潜入！という特集があった。私はぼんやりとテレビに顔を向けて見ていた。すると、そこには未知の世界が私の目に映った。車内は全面ガラス張りの窓で、透き通り開放的なスペースが広がっていた。面積約二百万平米のオフィスには、最先端の技術を導入し

会計を効率良く行える食堂、業務中のリフレッシュ用に設備されているマッサージルーム。さらには、だれでも自由に使用できるヨガルーム、防音室、シャワールームに授乳室。まさに夢の空間であつた。私はその時人生で初めて将来の夢が見つかった。すぐに大企業に就職する方法を調べたところ、有名大学を卒業することが必要である。という記事が多く出てきた。私は正直、自分の学力には自信がなくて、有名大学なんて不可能だと思つていた。しかし、大手企業について調べれば調べるほど魅力を感じ、人前で胸を張って、将来の夢を話せるほどになった。どうしても夢を諦めきれなかった私は、とにかく自分にできることを今からでも始めてみようと思い、その日から必死に勉強した。まずは、学校で行う定期テストで良い成績を取ろうと思った。授業中は細かいことでもメモを取ったり、自分に合う勉強法を見つけようと、いろいろな方法を試した。すると、私は、一年間で内申点を八点も上げることができた。それから私は自分に自信を持てるようになり、より学力を上げようと、今まで以上に勉強に励んだ。ところが、三年生へと進学して成績が伸びず、思い

悩む時期が続いた。自分自身を信じる事が出来なくなり、「もう無理だ。こんな大きな夢。かなうはずがない。」と人生で初めてできた夢を断念しようとした。そんな時、この言葉に出会った。この言葉は母が落ち込んでいた私にかけてくれた言葉だ。彼の言葉を初めて聞いた時、「そんなのデマでしよ。」と真に受けずに聞き流してしまった。しかし、数日後、ある本を読んでいたら、母が私にかけてくれた言葉と再会した。私は、その時何かの縁を感じ、「もう一度勉強を頑張ってみようかな。」

力で、この大きな夢に手が届き、実現させることを誓う。

と思う起こすことが出来た。そしてその回の定期テスト。私は過去最高の内申点を取り、納得のいく成績を収めることができた。大きな達成感を得ることができた。彼の言葉を信じてよかった。と心の底から思った。彼の言葉に救われた。自信を取り戻すことができた。遠い夢が手の届くところにあるように感じた。私はこの経験から多くのことを学ぶことができた。自分自身の信じることの大切さ。言葉がもつ力の偉大さ。夢を諦めずに励み続けると自然と達成感がついて来るということ。これからもこの言葉を信じ、大きな夢に向かって努力し続けようと決心した。そして、自分自身の

発行

川口市青少年保護育成本部事務局
川口市役所子ども部青少年対策室
川口市青木 2-1-1（第二庁舎 3 階）
電話 048-258-1115